

氏作広本寺に新事知

さる一月二十二日行われた熊本県知事選挙の結果、最高点で寺本広作氏が選ばれ、一月二十五日の県知事選挙会で当選人と決定しました。なお、二月十一日から新事知の仕に入り入ります。(写真は寺本知事)

(寺本知事の略歴)

- 一、宇土郡、不知火村に生まれた。
- 二、宇土中学、五高を経て、東大を卒業、在学中、高文に合格し内務省に入った。
- 三、高知、茨城、青森、山梨の各県で地方行政に当った。
- 四、内務、厚生、内閣、労働の各首庁に歴任、労働事務次官となつた。
- 五、参議院議員に当選し、文部政務次官、外務常任委員長等を歴任した。
- 六、日本政府代表として、アメリカ及びスイスで開かれた国際労働会議に、参議院議員団長として、イギリスで開かれた列国議会同盟会議にそれぞれ出席した。
- 七、政府部門で、経済復興計画、引揚同胞対策、社会保障制度、中央産業教育、地方制度、その他各種審議会の委員となつた。



胞対策、社会保障制度、中央産業教育、地方制度、その他各種審議会の委員となつた。

人は生きるに

ルポ地現

一 鹿本経営伝習農場



小春日和の午後——
植木の町の出はずれから左に分れる干田経山鹿行バスでさらに二十分も行く。と伝習農場前という停留所。
霜どけのダラ／＼坂を百メートルも廻ると突然視界が明るく開け、堤が平という台地に出る。広々とした畠を前にして真正面に赤い屋根の平家が建ち並び、これが鹿本経営伝習農場である。

強い地元の協力

肥桶をかついで麦の手入をする十五六の少年たちが、あちこちに働いていて愛想よく挨拶をする。第一印象は満点だ。建築中の講堂を右手に見て玄関に訪う。場長室で長身の安楽場長と対談十五分、「菊池の伝習農場に近過ぎる」という話もありすがね、何せ地元が熱心でして、土地を提供した上に経費二〇〇万円を寄附するという積極的な協力がある。をいつてこゝに創られたものです。以来五年になりますが、定員五〇名に倍以上の応募者が全県から集まってくるので、嬉しい悲鳴というところですね。」

修業年限が一年に過ぎないので物足りないところがあるが、二十四時間全部が師弟同行の授業といえるのだから、普通の学校に比べると実質的に三四年分はあるわけ。

窓に花、壁に洋画

寄宿舎に行くとき土間の中廊下を挟ん

三ヶ年の成果は？ 新生活の実績発表

きたる二月十二日、県立図書館で、熊本県新生活運動協議会と熊本県などの主催によつて第三回熊本県新生活運動実績発表大会が開催されます。

新時代に即する社会生活の向上をめざし、これを県民運動として新生活運動を開始してから早くも三年目を終ろうとしています。この機会に、本年度県指定地区の実績発表を行つて、いくつかの問題点を中心に参加者等々で研究討議をかさね、この運動の今後の進め方を更に活潑にしようというのがこの大会のねらいです。

(大会の主な内容)

- 個人発表** 私の部落の結婚改善 (阿蘇町跡ヶ瀬)
私の校区における青少年保護育成 (宇土市宇土校区)
私の町における貯蓄増強 (人吉市上青井町)
討議 栄養及び食生活改善の進め方 (鹿央村、竜北村、御船町)
フィルムフォーラム 蚊とはえのない生活をめざして (旭志村)
家族計画、母子衛生の歩み (倉岳村)
対談 このような新生活運動を進めていく (託麻村、五和町)
討議 地域に即した新生活運動の進め方 (熊本市、田浦町、横島村)
全体討議 本県における新生活運動の問題点

告知板

おしらせ

- 一、試験の種類
 1. 農業改良普及員資格試験
 2. 生活改良普及員資格試験
 - 二、受験願書の受付
 1. 受付期間 昭和三十四年二月一日から同月二十日まで
 2. 送り先 熊本市行幸町一九熊本県農業改良課 課あて
 - 三、試験の期日と場所
 1. 期 日 昭和三十四年三月十日から三月十三日まで (四日間)
 2. 場 所 熊本県農業試験場
 - 四、受験手続

受験希望者は左記の書類を提出すること。

 1. 受験願書
 2. 履歴書
 3. 最終学校卒業証明書若しくは卒業見込証明書又は検定合格証明書
 4. 職歴証明書
 - 五、受験票及び写真

志願者のうち、受験資格を認める者に対して、受験票を交付するので、写真を貼付して試験当日必ず持参すること。

★なお詳しい事については熊本県農業改良課へお問合わせ下さい。
- お申込みは早く
- 改良普及員の試験が行われます ★ ★ ★

で、六畳ほどの洋室が両側にズバリと並んでいる。一部屋に四人あての合宿、中央に机があつて両側が二段式の寝棚、窓際には花が活けられたり、壁面には絵が貼られたり、男ばかりでも十代の感傷は視がわれる。

生徒が天ぶら揚げ

六時に起きて九時に寝るまで生活はすべて一緒、食堂へ行くと隣りの炊事場で数人の生徒が天ぶらあげの最中、油の匂いが鼻をつく。製米、製麦、味噌醤油から副食物まで自給自足、カロリー計算までやつての献立だという。

暖冬の今年でも珍らしく温かい日差しの中に、場内を一とめぐり、牛舎には数頭のホルスタイン種乳牛と肥後赤牛、肥後赤牛の仔はついでこの頃品評会で一等をとつた優秀なものだという。
縄をなう生徒、堆肥づくり生徒、忙しく立働く姿には「日曜」のカケラもない。

寒でられる生産譜

二つのサイロには飼料がいつぱい。真白なレグホーンが馬舎の中をまぐろしく交錯する。綿羊は温かそうに着ぶくれ豚どもは豚らしく食ものあきりに余念もない。今年できたばかりの温室の前には、赤や白の菊が咲き乱れ、まだ霜あたるの少い緑草と美しい対比をみせている。

麦畑の緑にはまだ植えて三年だという茶の木が五十センチにも伸びた逞しい成

長ぶり。
果樹もいろいろ植えつけられ、桃はそろそろ生りだしたという。
すべてが澄みわたる生産譜を奏でているわけだ。

実践から理論へ

- 一、生産実習中心の教育
- 二、職員生徒共同実践による科学教育の体得
- 三、勤労精神と農業趣味の啓蒙
- 四、全寮制による生活訓練とクラブ活動による自主性の訓練
- 五、保健指導

これが教育の綱領で、要するに土に親しむ百姓の養成であり、中堅農民、指導層農民の育成にあるといえよう。この点普通の農業高校とは大いに趣きを異にしている。
それだけ父兄も熱心で、この経営には非常な関心と協力を払つてをり、この日も二人ほど父兄が訪ねてきた。

一年間預けつばなし、盆正月しか帰らない子供への煩悩もあるが、この教育に大きな期待をかけていることも争えない。父兄会が年に四回、母師会が二回その都度一泊二日生徒と生活を共にするというのもこゝらしい特色。
「毎日夕食後二時間作業報告というのをやつて、その日の反省をし、その結果から次の進路を発見して行く。つまり実践から理論に入るのですよ」と安楽場長は力強く結論をつけた。